

2025年 フォーラム・ポーランド会議
ショパン国際ピアノコンクール100周年をひかえて

日 時： 2025年11月22日（土）9:30～15:40
場 所： 駐日ポーランド共和国大使館タデウシュ・ロメル ホール
主 催： フォーラム・ポーランド
協 力： 駐日ポーランド共和国大使館、ポーランド広報文化センター
言 語： 日本語

ポーランドを代表する音楽家フリデリク・ショパンの名を冠した「ショパン国際ピアノコンクール」は、1927年に開始して以来、世界の音楽文化において比類なき存在感を放ってきました。若きピアニストたちがこの舞台で腕を競い、ショパン解釈の新たな地平を切り開くことは、単なる音楽的成果にとどまらず、時代ごとの文化的・社会的潮流をも映し出してきました。2027年には創設100周年を迎えるこのコンクールは、その歴史的意義と未来的展望を考える格好の契機となっています。

本年度のフォーラム・ポーランドは、この記念すべき100周年を目前に控えた現在の時点から、コンクールとショパン音楽、ポーランドの音楽を多角的に見つめ直す場を設けます。創設以来の歴史的変遷をたどり、音楽解釈や審査の基準、国際的な位置づけがどのように変化してきたのか、ショパンの音楽が日本においてどのように受容されてきたのか、その教育的・演奏史的側面を明らかにします。さらに、ショパンが打ち立てた独自のジャンルであるマズルカをめぐる解釈や表現の可能性についても議論を深め、ショパン音楽の核心に迫りました。

本シンポジウムを通じて、ショパン音楽の普遍性と多様性を再確認することができました。



司会： 平岩理恵（フォーラム・ポーランド事務局長、ポーランド広報文化センター）



9:30～ 9:35 開会の辞： 白木太一（フォーラム・ポーランド副代表、大正大学名誉教授）



9:35～ 9:45 歓迎の挨拶：パヴェウ・ミレフスキ（駐日ポーランド共和国特命全権大使） /
代理挨拶 アグネシュカ・クラウス参事官



9:45～ 9:50 記念撮影

午前の部 9:50～10:40

9:50～10:00 国立フリデリク・ショパン研究所（NIFC）のビデオメッセージ放映



10:00～11:00 青柳いづみこ（ピアニスト、文筆家、大阪音楽大学名誉教授）「2025年ショ
パン国際ピアノコンクールを振り返って」



11:00~12:00 多田純一（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター客員研究員）「日本におけるショパン受容 一初期のショパン・コンクールは日本でどのように報じられたのかー」



12:00~12:40 昼食、休憩

午後の部： 12:40~15:30

12:40~13:40 飯島聰史（ピアニスト、フォルテピアニスト、音楽学者）「ショパン演奏におけるテンポ・ルバートの再考 一「楽譜通り」の演奏とは?ー」



13:40~14:40 楠原祥子（ピアニスト、元桐朋学園大学音楽部特任講師）「ショパンのマズルカ 一真髄探しの時代を経て自分のマズルカを奏でるに至るー」



14:40~15:00 ティータイム

舞踏公演 15:00~15:20
Tokio na zdrowie

「ヴァルツ～ポルカマズルカ」ショパン / ワルツ Op.64-2 ～ マズルカ / Op. 7-1
「ヤン・トウホのクラコヴィア」ショパン / 演奏会用ロンド Op.14 よりクラコヴィア
「ヤン・トウホのハルカのマズール」モニューシュコ/歌劇"ハルカ"よりマズル
(*ヤン・トウホは振付師)



15:20~15:30 閉会の辞 ウルシュラ・オスミツカ（ポーランド広報文化センター所長・参事官）



登壇者紹介

パヴェウ・ミレフスキ (Paweł Milewski) 駐日ポーランド共和国特命全権大使



1975年生まれ。1999年アダム・ミツキエヴィチ大学にて中国学修士号を取得後、1996年より首都師範大学（中国）、続いて1997年より廈門大学（中国）に留学。2003年ワルシャワ経済大学国際経済研究室研究課程（PG Dip）修了。1999年ポーランド共和国外務省入省。2000年よりアタッシェ、三等書記官としてアジア・太平洋局にてアジア・太平洋諸国問題に従事。2003年から2009年にかけ駐中華人民共和国ポーランド共和国大使館にて二等書記官、一等書記官、参事官として勤務。2009年よりポーランド共和国外務省アジア・太平洋局 東アジア・太平洋課長、2011年よりアジア・太平洋局副局長を務める。2013年に駐オーストラリア・ポーランド共和国大使に就任する。この間、駐パプアニューギニア・ポーランド共和国大使を兼任。2017年ポーランド共和国外務省アジア・太平洋局局長に就任。2019年10月に駐日ポーランド共和国大使として来日。

ウルシュラ・オスミツカ (Urszula Osmycka) ポーランド広報文化センター所長・参事官



ワルシャワ大学日本学科卒業、専門は近現代日本史。1999年、文部省在外研修員として鹿児島大学で1年間日本語・日本文化研修、2002～2006年、九州大学法学部で学び、修士号（政治学）を取得。帰国後、在ワルシャワエジプト大使館、在ワルシャワ日本国大使館などに勤務。2009年、外務省のアジア・太平洋局に勤務。2011年、日ポ外交官交流プログラムに参加し、外務省欧州課でのインターンシップを修了。2012～2018年、駐日ポーランド大使館政治経済部で政治・報道問題、広報文化外交のプロジェクトを担当。2018年8月より、外務省大臣官房参事官。2021年9月、東京のポーランド広報文化センター長に就任。英語、日本語、フランス語に堪能。

青柳いづみこ（ピアニスト、文筆家、大阪音楽大学名誉教授）



安川加壽子、ピエール・バルビゼの各氏に師事。マルセイユ音楽院首席卒業、東京藝術大学大学院博士課程修了。学術博士。平成2年度文化庁芸術祭賞。演奏と文筆を兼ね、著作は35点、CDは26枚。21枚のCDが『レコード芸術』特選盤となるほか、師安川加壽子の評伝『翼のはえた指』で吉田秀和賞、祖父青柳瑞穂の評伝『真賤のあわいに』で日本エッセイストクラブ賞、ミステリー・エッセイ『6本指のゴルトベルク』で講談社エッセイ賞、CD『ロマンティック・ドビュッシー』でミュージックペンクラブ音楽賞。近著に『ショパン・コン

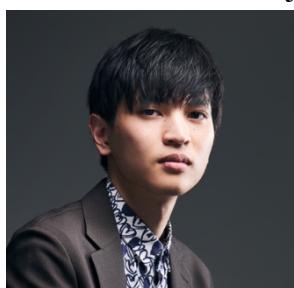
クール見聞録』(集英社新書)、『パリの音楽サロン ベル・エポックから狂乱の時代まで』(岩波新書)。2025年はサティ没後100年記念して『ドビュッシーとサティ どちらが先駆者か』(春秋社)、CD『逃げ出させる歌 ピアノ独奏と連弾によるエリック・サティ選集』(ALM)刊行。日本演奏連盟、日本ショパン協会理事、大阪音楽大学名誉教授。兵庫県養父市芸術監督。HP:<https://ondine-i.net>

多田純一 (Junichi Tada) 京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター客員研究員



1972年大阪府堺市生まれ。大阪芸術大学大学院芸術研究科博士後期課程修了、博士号(芸術文化学)を取得。音楽学を芹澤尚子、前川陽郁、ピアノを藤井美津子、安部ありか、前田則子の各氏に師事。著書『日本人とショパン 洋楽導入期のピアノ音楽』(アルテスパブリッシング)、『日本初のショパン弾き澤田柳吉』(春秋社)、共著『「バイエル」原典探訪 知られる自筆譜・初版譜の諸相』(音楽之友社)、CD『我が国最初の「ショパン弾き」澤田柳吉の世界～作品篇・演奏篇～』(監修および演奏、解説・ミッテンヴァルト)、『澤田柳吉の芸術 ピアノ・ロール&SPレコード 日本録音集』(サクラフォン)を出版。「ショパンー200年の肖像」展にて「日本におけるショパン受容」を担当(神戸新聞社、サンテレビジョン)。主な論文として‘Chopin in Japan: From Ongaku Torishirabe Gakari to Forest of Piano’ The Chopin Review Vol.4-5, Narodowy Instytut Fryderyka Chopina (pp.118–153)など。

飯島聰史 (Satoshi Iijima) ピアニスト、フォルテピアニスト、音楽学者



国立音楽大学大学院音楽研究科修士課程を首席で修了。修了時、最優秀賞及びクロイツァー記念賞を受賞。その後、同大学大学院音楽研究科博士後期課程において博士号(音楽)を取得。活動はモダンピアノに留まらず、フォルテピアニストとしても活躍し、第2回ショパン国際ピリオド楽器コンクール(ワルシャワ)での演奏は審査員であるトビアス・コッホ氏から「特別な何かを持っていた」と評される。また、研究活動としては、ショパンや音楽教育に関する学術論文、事典等、多数執筆。このような演奏及び研究活動は高い評価を受け、日本学術振興会科学研究費助成事業や(公財)戸部眞紀財団研究助成事業における研究代表者としても採択される。国立音楽大学大学院音楽研究科非常勤助教、広島文化学園大学学芸学部音楽学科専任講師を経て、現在埼玉学園大学人間学部専任講師。

楠原祥子（Shoko Kusuhara）ピアニスト、元桐朋学園大学音楽部特任講師



桐朋学園大学音楽部ピアノ専攻卒業、ポーランド国立ショパン音楽大学研究課程に留学、バルバラ・ヘッセ=ブコフスカに師事。1987年ベラ・シキピアノコンクール第1位。2025年まで桐朋学園大学音楽部特任講師。2025年1月ショパンマズルカ全55曲2枚組CDをリリース。音楽の友3月号で「各曲の特質を浮き彫りにした逸品」と注目版に取り上げられている。2021年リリースの『ショパンワルツ集』CDは讀賣新聞推薦盤。日本とヨーロッパで演奏活動を展開。日本各地での公演、レクチャー、日本ショパン協会主催ショパンフェスティバルin表参道、銀座ヤマハホール、千葉市主催リサイタルなど。ショパン作品の他シマノフスキ、パデレフスキ、ザレンプスキなどポーランド作品の演奏が高く評価されている。ポーランドでは、ワジエンキ公園日曜コンサート、ショパンの生家、グダンスク、ルブリンなどでリサイタルをおこなった。『ブスコショパン国際ピアノ音楽祭～夏をショパンと』には2002年から毎夏レギュラーソリストとして招聘を受けている。エキエル校訂ナショナルエディション日本語版ショパン バラードを翻訳、全音より発売。アダム・ザモイスキ著「ショパン プリンス・オブ・ロマンティクス」は大西直樹・楠原祥子共訳で音楽之友社より発売。10月のショパン国際コンクールファイナルのレビューを音楽雑誌『ショパン～コンクール特集号』に執筆。また今回のショパン国際コンクールには『ブコフスカ賞』寄贈者の一人として寄付をしている。

Tokio na zdrowie

「Tokio na zdrowie」は関東でポーランドの踊りを踊っているグループです。京都大学民族舞踊研究会（KVK）のOBOGを中心に、関東のフォークダンスサークルの学生・若手OBOGと一緒に練習に励んでおり、ポーランドの踊りのおもしろさ素晴らしさを感じ、観て感じていただくため活動しています。

”na zdrowie”と言えば”乾杯”ということで適度にお酒を楽しむとともに、文字通り健康のためにこれからも踊り続けます。



プログラム作成、会議録編纂チーム

田口雅弘 (Masahiro Taguchi) フォーラム・ポーランド代表、環太平洋大学教授



1956年生まれ。環太平洋大学経済経営学部教授、岡山大学名誉教授。専門は、現代ポーランド経済史、ポーランド経済政策論。1984年、ワルシャワ中央計画統計大学 (SGPiS=現在のワルシャワ経済大学) 経済学修士学位取得卒業。1988年、京都大学大学院経済学研究科博士課程後期単位取得退学 (京都大学博士)。その後、岡山大学経済学部教授、ハーバード大学ヨーロッパ研究センター(CES)客員研究員、ポーランド科学アカデミー(PAN)客員教授、ポーランド科学アカデミー(PAN)客員教授、ワルシャワ経済大学正教授、岡山大学学術研究院社会文化科学学域教授等を歴任。主要著書:『ポーランド体制転換論 システム崩壊と生成の政治経済学』(御茶の水書房、2005年)、『現代ポーランド経済発展論 成長と危機の政治経済学』(岡山大学経済学部、2013年)、*On the Identity of Poles.* (ed., Fukuro Shuppan, 2020)、『第三共和国の誕生 ポーランドの体制転換一九八九年』(群像社、2020年)、『ポーランドのなかのウクライナ 歴史・現状・経済復興』(共著、群像社、2025年)。

<https://mstaguchi.wixsite.com/index>

加須屋明子 (Akiko Kasuya) フォーラム・ポーランド副代表、京都市立芸術大学美術学部・大学院美術研究科教授



1963年兵庫県たつの市生まれ。京都大学大学院博士後期課程単取得満期退学 (美学美術史学専攻)。ヤギエロン大学 (クラクフ、ポーランド) 哲学研究所美学研究室留学。国立国際美術館主任学芸員を経て、現在、京都市立芸術大学美術学部・大学院美術研究科教授。博士 (文学)。専門は近・現代美術、美学。主な展覧会企画は「芸術と環境—エコロジーの視点から」1998年、「死の劇場—カントルへのオマージュ」2015年、「セレブレーション：日本ポーランド現代美術展」2019年など。2011年-2020年龍野アートプロジェクト芸術監督。2022年よりたつのアート実行委員会代表。主な著書『ポーランドの前衛美術——生き延びるための「応用ファンタジー」』(創元社、2014年)、『現代美術の場としてのポーランド—カントルからの継承と変容』(創元社、2021年)など。

<https://www.kcua.ac.jp/professors/kasuya-akiko/>

白木太一 (Taichi Shiraki) フォーラム・ポーランド副代表、大正大学名誉教授
(プログラムリーダー)



1959年東京生まれ。早稲田大学第一文学部西洋史専修卒業。早稲田大学大学院文学研究博士課程単位取得退学。1986~89年、ワルシャワ大学歴史研究所留学。文学博士。大正大学文学部歴史学科教授を経て、現在大正大学名誉教授。専門は近世ポーランド史。主要業績：『近世ポーランド「共和国」の再建—四年議会と五月三日憲法への道』（彩流社、2005年）、「近世ポーランドにおけるヘトマン（軍司令官）職—その社会的役割の変遷を中心に—」（井内敏夫編『ヨーロッパ史におけるエリート』（太陽出版、2007年）、「聖職者イグナツィ・クラシツキと18世紀後半のヴァルミア司教区」『鴨台史学』第9号、2009年、『[新版] 一七九一年五月三日憲法』（ポーランド史叢書2 群像社、2016年）、「18世紀後半から19世紀初頭のワルシャワの作曲家と音楽会活動—近代ポーランド市民音楽形成に関する基礎的考察—」『国民音楽の比較研究に向けて—音楽から地域を読み解く試み—』（京都大学地域統合センター、2015年）、「現代ポーランド音楽の100年—シマノフスキからペンデレツキまで—」（ダヌータ・グヴィズダランカ著、重川真紀氏との共訳）、音楽之友社、2023年）、『ポーランド・バルト史（山川セレクション）』、（共著、山川出版社、2024年）、『ポーランドの歴史を知るための56章（第2版）』（共編著、明石書店、2024年）、『国民教育委員会ヨーロッパ最初の「文部省」』（ポーランド史叢書10、群像社、2024年）。

平岩理恵 (Rie Hiraiwa) フォーラム・ポーランド事務局長、ポーランド広報文化センター（プログラムリーダー、司会）



ポーランド語通訳・翻訳家。東京外国语大学大学院修士前期課程修了。ワルシャワ大学音楽学研究所に政府給費留学（2001~03年）。研究テーマはポーランドの舞曲およびスタニスワフ・モニューシュコ。訳書に『ショパン家のワルシャワ』（国立フリデリク・ショパン研究所）、絵本《ぼくショパン》シリーズ（同）、Curator's choice『フリデリク・ショパン博物館』（Scala Arts & Heritage）ほか、共訳書に『ショパン全書簡』（「ポーランド時代」および「パリ時代（上・下）」。岩波書店）、編著に ポーランド声楽曲選集第4巻『モニューシュコの家庭愛唱歌集（選）』がある。フォーラム・ポーランド事務局長。2024年よりポーランド広報文化センター文化担当エキスパート。

小早川朗子 (Tokiko Kobayakawa) フォーラム・ポーランド監事、ピアニスト、
桜美林大学教授 (プログラムリーダー)



東京藝術大学音楽学部附属音楽高等高校・同大学を経て、同大学大学院音楽研究科入学。ワルシャワ・ショパンアカデミーの研究生として2年間のポーランド留学の後、復学。修士課程ピアノ専攻首席修了、NTTドコモ賞受賞。その後同大学院博士後期課程に在籍し、博士号（音楽）取得。現在桜美林大学芸術文化学群音楽専修教授。ポーランド・アントニンにて、留学生のためのショパンピアノトーナメントでグランプリ、特別賞受賞。パリ国際マギンコンクールにて一位、およびジャーナリスト賞受賞。これまでに安田宏子、金子 園、足立和子、高良芳枝、角野 裕、クラウス・シルデ、多 美智子、ブロニスワヴァ・カヴァラの各氏に師事。大阪・東京、パリでのリサイタルの他に、ワルシャワ・ワジェンキ公園やショパンの生家でのショパンコンサートなどポーランド各地で演奏。ピアノ公開レッスンや公開講座などでポーランド語通訳を務める。アイエムシー音楽出版「はじめてのポーランド・ピアノ曲集 Vol.1,2」付属CD演奏。ハンナ社出版の「ポーランド声楽曲選集 第1-7巻」の編者。
<https://gproweb1.obirin.ac.jp/obuhp/KgApp?kyoinId=ogbgggyk>

Konferencja "Forum Polska" 2025
**W perspektywie 100. rocznicy Międzynarodowego
Konkursu Pianistycznego im. Fryderyka Chopina**

P R O G R A M

Data: Sobota, 22 listopada, godz. 9:30–15:40

Temat: W perspektywie 100. rocznicy Międzynarodowego Konkursu Pianistycznego im. Fryderyka Chopina

Miejsce: Sala im. Tadeusza Romera, Ambasada RP w Tokio

Organizator: Forum Polska

Współorganizatorzy: Ambasada RP, Instytut Polski w Tokio.

9:10 Otwarcie drzwi

Otwarcie konferencji (9:30–9:50)

9:30 – 9:35 Wystąpienie Wice-przewodniczącego Forum Polska Taichi Shiraki (prof. emeritus Taisho University)

9:35 – 9:45 Wystąpienie powitalne Pawła Milewskiego, Ambasadora Rzeczypospolitej Polskiej w Japonii (w zastępstwie: Radca Agnieszka Klausu)

9:45 – 9:50 Wspólne zdjęcie

Sesja przedpołudniowa (9:50–11:30)

9:50 - 10:00 Wyświetlenie wiadomości wideo z Narodowego Instytutu Fryderyka Chopina (NIFC) dla uczestników konferencji

10:00- 11:10 Izumiko Aoyagi (pianistka, pisarka, emerytowana profesor Uniwersytetu Muzycznego w Osace) - „Relacja z Międzynarodowego Konkursu Pianistycznego im. Fryderyka Chopina 2025”

11:00 - 12:00 Junichi Tada (wizytujący pracownik naukowy Centrum Badań nad Tradycyjną Muzyką Japońską Uniwersytetu Sztuki w Kioto) - „Odbiór Chopina w Japonii – jak relacjonowano pierwsze konkursy chopinowskie w Japonii”

12:00 - 12:40 lunch

Sesja popołudniowa (12:40-15:30)

12:40 - 13:40 Satoshi Iijima (pianista, muzykolog) - „Ponowne rozważania na temat tempa rubato w interpretacji utworów Chopina – wokół interpretacji „zgodnie z nutami””

13:40 - 14:40 Shoko Kusuhara (pianistka, wykładowczyni na Wydziale Muzycznym Uniwersytetu Toho Gakuen) - „Mazurki Chopina – od poszukiwania istoty utworów do grania własnych mazurków”

14:40 - 15:00 przerwa

Pokaz tańca „Tokio na zdrowie” (15:00-15:20)

Walc, Krakowiak, Mazur

15:20 - 15:30 Wystąpienie końcowe Dyrektor Instytutu Polskiego w Tokio Urszuli Osmyckiej